

## 【みえの遺跡紹介】松阪市 天白遺跡

天白遺跡は、三重県北中部を流れる雲出川支流・中村川の中流域沿岸にある遺跡です。この遺跡では、縄文時代後期中葉から晩期初頭にかけて（約 4,500～3,300 年前）の西日本では珍しい配石遺構群や埋設土器群が発見されました。遺物には多量の縄文土器、土偶、岩偶、石棒などもあり、ここで「まつり」を行っていたと考えられます。

出土した土器の形や文様は、西日本の特徴を持ったものが中心ですが、東北地方・関東地方・中部地方・北陸地方の特徴を持つものがあり、この天白遺跡が東西文化の結節点であったことがわかります。

こうしたことが評価され、遺跡は平成 12 年に国史跡に、出土品は平成 30 年に県有形文化財となりました。この場所は遺跡公園として整備されており、再現された配石を見ることができます。この地域では、この公園で考古学にまつわるイベントを行い、地域をあげて天白遺跡のすばらしさを後世に伝えようとしています。

天白遺跡の発掘調査報告書は、こちらでご覧いただけます。

<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/da-tosyo/maibunDetail?mngnum=785541>

（活用支援課）



### 配石遺構群

（全体で 30 基見つかっています。各配石遺構は埋設土器を伴いながら、径 20 メートル前後の中央広場を囲むように分布しています。）



円形に並べられた配石遺構



出土遺物

（当時の生活実態や精神文化、東西日本の結節点であることなどを示す貴重な資料であることから、県の有形文化財に指定されました。手前中央が、ダンシング テンちゃんのモチーフとなった土偶です。）



三重県埋蔵文化財センターのマスコットキャラクター  
『ダンシング テンちゃん』

（踊っているような土偶をモチーフにしてできた人気キャラクター。子どもたちに大人気です。）